

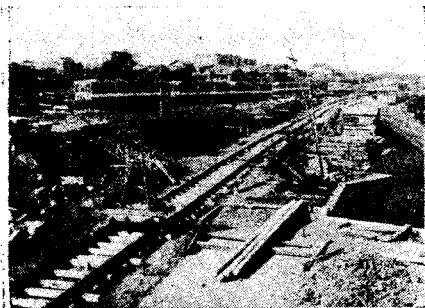
ニュース

○池袋お茶の水間地下鉄開通近し

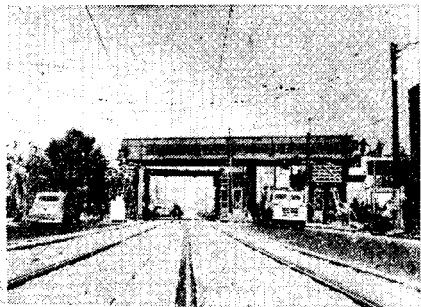
東京都内において、国電山手線の内側における地下高速度交通を営む目的をもつ帝都高速度交通営団は、戦後急激に発展膨脹した池袋より、都心への放射線として、その高速度交通網のうち、第4号線（池袋—東京駅—赤坂見附—新宿）22 kmの一部をなす、池袋—お茶の水間 6.6 kmの建設工事を 26年3月30日着手した。

これについては、本誌の36巻6号と38巻2号で紹介させていただいたが、電車30輛を収容する車庫線の関係上、約1.8 kmは地上線になり、この区間は用地の関係上、本年1月やつと着手の運びとなつた。周知のごとく、未曾有の降水天候が続いたので、都心に莫大な土量をトラック輸送する関係上、異常な苦心を続けたが、各方面の御協力を得て、軌道工事に必要な土木工事が11月上旬でき上つたので、現在軌道工事、電気工事、建築工事が相ついで来春1月の営業開始を目前に鋭意工事を進めている。

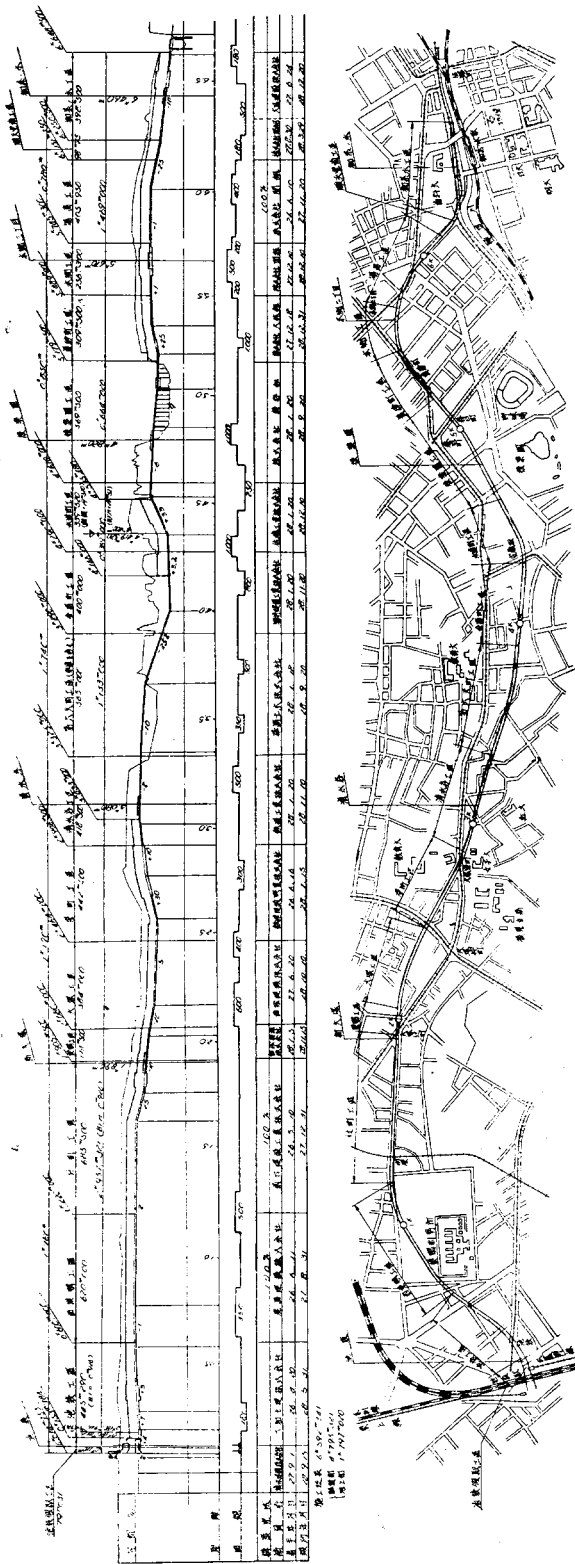
写真—1 新車到着し軌道工事中の小石川電車庫線



写真—2 架設中の春日町架道橋



池袋—神田間地下鉄工事概略図



土木工事は、地下区間はすべて、切開式(open cut)により施工した鉄筋コンクリート函型ラーメンで現在の浅草一汐谷線のごとき鉄骨は全然使用しなかつた。教育大学前、本郷三丁目のごとき家屋下通過部分は下受け工法があるいは一時仮移転(曳き家して後に復旧)によつた。コンクリート施工に困難な箇所はコンクリートポンプを使用した。

軌道工事は、曲線部分は砕石砂利道床で 12.5 m 軌条、直線部分はコンクリート道床で 25 m 軌条で、堅枕木を採用し、2.5 m ごとに横枕木でこれに第 3 軌条を載せた。

電車もすでに 8 輛を車庫線に収容したが、すべて電動車で 1951 年ニューヨーク市地下鉄で用いた ABF 型電磁空気総括自動制御装置、並びに SMEE 型電磁空気制動装置で、電気、空気の両制動を一元操作し得る点で、従来日本の電車に見られない数多くの特徴を備えている。製作費は 1 輛 3 千万円である。

重要資材として、鉄筋用の丸鋼約 9500 t はすべて支給した。土留鉄杭並びに路面受け用の I-beam 等の型鋼約 8300 t は貸与した。コンクリートは盤城セメントと浅野コンクリートの両工場の生コンクリート(Ready Mixed Concrete) 約 85000 m³ を使用し、しかも最盛期には月 13000 m³ のコンクリートを都心において施工したが、これも生コンクリートの功績と思われる。

建設費の内訳は表-1 のごとくで 1 km 当り 798 百万円に上る。

かくして、池袋-お茶の水間はわづか 12 分で結ばれるわけであるが、この線は交通情勢からも、収支上からもお茶の水で停るべきでないで引続き都心への延長について各方面の御了解を得た。すなわち、淡路町-大手町-東京駅前-銀座西(数寄屋橋)に至る、3.2 km の商業地帯、官公庁地区の交通需要上の要点を通るわけである。

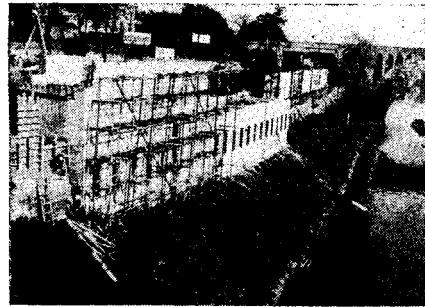
表-1 池袋-お茶の水間建設費内訳表

費 目	金 額
用 地	3 8 9 (百万円)
土 木	2 6 4 2
建 物	1 5 5
軌 道	2 2 9
電 気	5 8 1
車 庫	9 2 3
電 車 庫	1 4
工 事 用 具	1 4
測 量 監 督	3 2 0
計	5 2 6 7

写真-3 隧道完成し路面復旧中の真砂町電車通り



写真-4 国電側より見た新お茶の水駅



(帝都高速度交通営団建設部)

土木工学叢書

◎ 叢書のお申込は土木学会へ、只今なら全部揃います ◎

- | | | | | | |
|-------------|---------------|-------|------|---------|----------|
| (1) 杉戸 清著 | 下水道学(前編) | B 5 判 | 258頁 | 定価 500円 | (送料 70円) |
| (2) 福田 武雄著 | 木構造学(再版) | B 5 判 | 243頁 | " 500円 | (" 70円) |
| (3) 広瀬 孝六郎著 | 下水道学(前編) | B 5 判 | 177頁 | " 500円 | (" 70円) |
| (4) 岡田 信次著 | 鉄道線路 | B 5 判 | 168頁 | " 350円 | (" 70円) |
| (5) 平井 敬著 | 鋼橋(1)(再版) | B 5 判 | 530頁 | " 1000円 | (" 80円) |
| (6) 横道 英雄著 | 鉄筋コンクリート橋(再版) | B 5 判 | 469頁 | " 1300円 | (" 80円) |
| (7) 杉戸 清著 | 下水道学(後編) | B 5 判 | 238頁 | " 500円 | (" 70円) |